教育長コラム

羽島郡二町教育委員会
教育長 野原 弘康

科学作品・課題作品に思う

今年度は、8月29日・30日の両日にわたり「羽島郡児童生徒科学作品展・課題作品展」が開催されました。出品数および来場者数は年々増加しており、児童生徒や保護者の皆さまの関心の高まりを大変嬉しく思っています。

会場に並んだ作品の一つひとつからは、試行錯誤や工夫を重ねる姿、多角的な着眼点から粘り強く調査し考察する姿など、子どもたちの柔軟な発想と熱心に取り組む姿が目に浮かんできました。

科学作品や課題作品づくりには、必ず出発点となる「出会い」があります。「えっ」「なに」「すごい」「やってみたい」といった、日常見過ごしがちな事象への気付きから疑問や憧れを抱き、予想や仮説を立て、実験・実習を経て結果を考察する。さらには、それを実際の生活へと発展させている点が素晴らしいと感じました。

昨今、AI等の活用により瞬時に様々な情報が得られ、それだけで理解できたように思い込んでしまいやすい時代になりました。だからこそ、自分の目で見て、肌で触れ、実際に実験・操作をする過程で抱く「五感という感性」を生かした実感を伴う学びこそが、本当に価値のある深い学びであると考えます。

特に子どもたちにとっては、このような学びが極めて重要であり、科学作品や課題作品への取組は、まさに質の高い学習の機会であると捉えています。

これからの作品づくりにも大きな期待を寄せています。

教育委員会だより

キッズウィークの子どもたち

羽島郡内の小中学校では、豊かな体験や家族や地域とふれあうことを目指し、10月3日（土）～10月12日（月）まで「キッズウィーク」を実施しました。今年度も、キッズウィークを充実させるために、郡内で様々な活動が行われました。

笠松町では、みんなで楽しみながら学べるイベントが行われました。「秋の親子教室」の「消防士体験教室」では、はしご車の高さを親子で体験した保護者の方から「普段体験できないことができ、親子共々とても楽しめ、勉強になりました。」との声を頂きました。「かさま～る」では、岐阜工業高等学校建築・土木工学科の生徒たちが、課題研究を通して笠松町のよさを発信し、子どもから大人まで、地域の誰もが楽しく交流できるイベントとして開催されました。今年は笠松の和菓子をテーマにしたブースや、工業高校の特色を生かした体験ブースなど、オリジナリティ溢れる楽しい活動がありました。

また、羽島郡スポーツ推進委員協議会主催の「羽島郡健康ウォーク強化day」が開催されました。今年度もお茶の給水サービスを中継所で実施しました。参加者とのふれあいも増え、役員にとっても気持ちよく開催することができました。運営スタッフとして郡内の中学生がボランティアとして参加し、地域の皆さまと関り、繋がるきっかけとなりました。

子どもたちは様々な体験を通して、多くのことを学び、成長していくと考えています。今後も、キッズウィークなどの休業日において、家庭・地域での交流や体験から楽しく学ぶことができるように、活動内容の充実に努めていきたいと考えています。